

聖公会の聖餐式では、「聖なるかな(サントゥス)」を歌い(唱え)ます。そこでは、「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の神」から始まり、「いと高きところにホサナ」という言葉が二度出てきます。

この「ホサナ」ですが、イエス様が使っておられたアラム語の「ホーシャナー」から派生した言葉です。そのもともとの意味は、「お救い下さい」というものでした。

しかしこの言葉がギリシア語に訳され、初代教会に伝えられたときには、尊敬を示す言葉やあいさつと変化していたようです。

ホサナと聞いて思い出す聖書箇所は、イエス様のエルサレム入城の場面ではないでしょうか。

大勢の群衆が自分の服を道に敷き、また、ほかの人々は木の枝を切って道に敷いた。そして群衆は、イエスの前を行く者も後に従う者も叫んだ。「ダビデの子にホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように。いと高きところにホサナ。」(マタイによる福音書 21 章 8～9 節)

このときの「ホサナ」は歓迎の叫び声、歓呼であり、「万歳！」と似たような意味だと捉えることもできます。

その後、「ホサナ」はキリスト教の礼拝の中で用いられる語になっていきます。そしてその意味は、「祝福を」や「栄光を」というもの変わっていきます。

したがって「聖なるかな」の中では、「いと高きところに祝福を」、「いと高きところに栄光を」と歌っているのです。

そのことを意識しながら、「ホサナ」と叫びましょう。

次回は「交わり」です。お楽しみに。



「キリストのエルサレム入城」

シャルル・ルブラン

(1619～1690 年)

そして、前を行く者も後に従う者も叫んだ。「ホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように。

(マルコによる福音書 11 章 9 節)

